

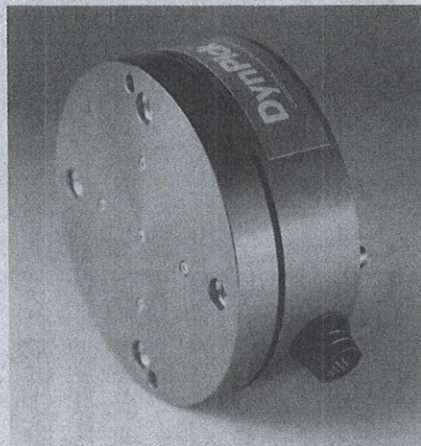
TYPE OF
INDUSTRY

ロボット技術の進化が加速している。従来より速く正確な動作が可能になったほか、ロボットが自ら感じて判断する「知能化」も実現しつつある。さらなる進化のカギを握るのが、部品、周辺機器、ソフトウェアといったロボットシステムの構成要素。こうした「機構」に光を当て、各領域で強みを持つ有力企業に迫る。

人が手先の感覚を駆

ザ・機構

カセンサー



静電容量式カセンサー「ダイインピック」

①

ワコーテック

使して行う作業をロボしながら動かすことがトでもできないかできる。近年、組み立てなどの自動化用途で導入例が増えている。だ。ロボットのアーム ワコーテック（富山）が受ける荷重を動作制御 静電容量式を売りに急御に反映させること 成長するカセンサーメで、位置などを微調整

ロボット

荷重を動作制御に反映 組み立て自動化

「カード。カセンサー（同）という。15年度はさらに伸び、販売数は1500台前後にまで拡大した。組み立てやバリ取りなど自動化が進んでいない用途で、カセンサーが強く求められていることが理由だ。また「ロボットメーカーもカセンサーを使った組み立てシステムなどを積極的に売り込んでくれている」と鈴木所長は付け加える。

16年度の販売目標は2000台。国内外で労働力不足への懸念が高まる中、さらなる普及が期待される。

（藤崎竜介）
（随時掲載）

「最初は年3台くらいしか売れなかった」（鈴木所長）。転機はそれから4年後の12年。大手ロボットメーカー数社からオプション品として採用され、「年1000台近く出るようになった」